

特定事業者排出量削減報告書

住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	大阪府大阪市北区中之島3-2-4								
氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）	株式会社 朝日新聞 代表取締役社長 秋山耿太郎								
特定事業者の主たる業種	新聞発行								
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））								
計画期間	平成 20年 4月 ~ 平成 23年 3月								
基本方針	平成19年度を基準に平成22年度の温室効果ガス排出量を3%程度の削減を目指す								
推進体制	定期的に進捗会議を開催、平成19年度を基準とする新たな実行計画の進捗管理を実施する								
	環境マネジメントシステム名称	ISO14001		KES ステップ2					
	適用範囲	京都工場		京都工場					
具体的な取組及び措置の状況	取得年月日	2005年12月		2005年3月					
	年度	設備、対象、工程等	措置内容						
	平成20年度	京都工場	空調機の運転スケジュール見直しを行い、夏場の電力・ガス使用量が減少した。						
平成20年度	事務所ビル	エネルギー削減に努力した。テナント退出という特殊事情が加わりエネルギー使用量が大幅に削減された。							
平成20年度	宿泊施設	無駄な電気遣を使用しないように努めた							
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） （19）年度 （二酸化炭素換算）	目標年度（計画） （22）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （計画）	報告年度（実績） （20）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （実績）			
	A 事業所等排出区分	4,417.6 t	4,277.5 t	-3.2 %	4,235.7 t	-4.1 %			
	B 輸送車両排出区分	t	t	%	t	%			
	C その他排出区分	t	t	%	t	%			
	排出合計	4,417.6 t	4,277.5 t	-3.2 %	4,235.7 t	-4.1 %			
実績に対する自己評価	工場では空調機の運転スケジュール見直しを行うことで、電力・ガス使用量が減少した。事務所ビルではテナントの退出により、エネルギー使用量が削減。不要な照明を消すなど省エネに努めている。								
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）		
	工場	二酸化炭素換算 （印刷部数）	0.122 t-CO2/l	0.118 t-CO2/l	-3.3 %	0.112 t-CO2/l	-8.2 %		
	事務所ビル	二酸化炭素換算 （賃貸部分を除く延床面積）	0.101 t-CO2/m <sup>2</sup>	0.097 t-CO2/m <sup>2</sup>	-4.0 %	0.089 t-CO2/m <sup>2</sup>	-11.9 %		
		二酸化炭素換算 （ ）			%		%		
実績に対する自己評価	京都工場では生産量（印刷部数）は対前年で1.9%増加したが、電気（3.1%）ガス（1.5%）それぞれの使用量が減少し、8.2%の削減ができた。								
地球温暖化対策貢献量	対策等の区分	目標年度（計画）				報告年度（実績）			
		取組量等 （二酸化炭素換算）				取組量等 （二酸化炭素換算）			
	森林の保全及び整備	（整備面積）	ha	（吸収量）	t	（整備面積）	ha	（吸収量）	t
	市内産の木材の利用	（利用量）	m <sup>3</sup>	（削減量）	t	（利用量）	m <sup>3</sup>	（削減量）	t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	（発電量）	kwh	（削減量）	t	（発電量）	kwh	（削減量）	t
	グリーン電力の購入	（購入量）	kwh	（削減量）	t	（購入量）	kwh	（削減量）	t
	家庭における温室効果ガス排出量の削減効果分の購入	（購入量）	t	（削減量）	t	（購入量）	t	（削減量）	t
	削減量等合計	t				t			
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	京都工場：「DO YOU KYOTO? プロジェクト」ライトダウンに登録								
特記事項	今年度は、エネルギー使用量が大幅に削減されたが、これはテナントの退出という特殊事情によるところが大きい。このため、目標値は変更せず、今後も省エネ対策を継続して実施する。								

注1 該当する□には、レ印を記入してください。  
 注2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のそれぞれの年度をいいます。  
 注3 「事業所等排出区分」とは本市の区域内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を本市の区域内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の本市の区域内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。  
 注4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、C、工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（製造品出荷額、延床面積、走行距離等）を記入してください。  
 注5 「地球温暖化対策貢献量」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度（計画）」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度（実績）」欄には実績の累計を記入してください。  
 注6 「地球温暖化対策に資する社会貢献活動」には、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献や地域における環境教育の実践活動など、地球温暖化対策や環境負荷の低減につながる活動を記入してください。  
 注7 「特記事項」には、1990年を基準とした排出量の対比や、温室効果ガス排出量の算定に当たって独自の係数を使用した場合など、説明を要する事項について記入してください。

